

# 改訂学習指導要領に則した小学校の係活動の機能に関する研究 ー楽しさを醸成し学級生活の向上につながる係活動の指導 プログラムの開発・工夫等と児童の変容ー

松田 修      中園 貴之      中園 大三郎

## 1. はじめに

今日、都市化、少子高齢化、地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、家庭や地域社会において社会性を身につける事や協働作業の機会が減少している。また、情報化の進展により、間接体験や疑似体験が膨らむ一方、望ましい人間関係を築く力をつけにくくなっており、自らの個性を生かし、全身から楽しさを体得できる教育活動は少なくなっている現状がある。このような現状の解消に、学校での望ましい集団活動や児童自ら選択できる体験活動を通して児童の人間形成を図れる最適な教育活動の一つに、係活動が挙げられる。

係活動は、昭和33年改訂学習指導要領において特別活動の内容である学級会活動の必修の領域として位置付けられ現在に至っている。係活動のねらいについては、小学校学習指導要領解説 特別活動編 第3章3(6)ウ(イ)において、次のように解説されている。

### [係活動のねらい]

係活動は、学級の児童が学級内の仕事を分担処理するために、自分達で話合って係の組織をつくり、全員でいくつかの係に分かれて自主的に行う活動であり、児童の力で学級生活を豊かにすることをねらいとしている。

係活動は、共通の興味・関心を持つ級友同士の児童の自主的な活動であるので、心理的負担の少ない受容的な人間関係が築かれることや協働的な役割分担による喜びを得られる。また、みんなのために役立つ楽しさや自己有用感を味わえること等のメリットが挙げられる。このようなメリットは、体験活動を豊かにし、今日的な教育課題として挙げられる人間関係や自尊心の向上等に最適な教育活動の一つであり、楽しい学校生活につながるものであると考える。

本研究で取り上げる学校における「楽しさ」については、1998年の学習指導要領改訂に反映された当時の教育課程審議会答申に示されており、その内容は次の通りであった。

- ① 学校は、子ども達にとって、伸び伸びと過ごせる楽しい場であること。
- ② 子ども達が興味・関心のあることにじっくり取り組めるゆとりがあること。
- ③ 分かりやすい授業が展開され、分からないことが自然に分からないと言え、学習につまずいたり、試行錯誤したりすることが当然のこととして受け入れられること。
- ④ その基盤として、子ども達の好ましい人間関係や子ども達と教師との信頼関係が確立し、学校の雰囲気も温かく、子ども達が安心して、自分の力を発揮できる場であること。

これらの条件を具体的に展開することが今日の学校に求められており、この条件の実現のため、全ての教育活動において楽しい学習や活動が期待されることとなった。

本研究で取り上げる係活動は、学校生活において集団活動・体験活動の基盤となる小集団での活動であることや、子ども達の興味・関心、創意工夫を生かせることから、自分達で楽しみながら活動できる最適な教育活動の一つであると言える。

## 2. 研究の目的・仮説

本研究の目的は、楽しい学級生活を創造できると期待できる係活動の指導プログラムを開発・工夫し、それを用いて、児童の資質・能力の育成を図ることにある。そのための仮説を次の内容で設定した。

仮説1 児童対象に設置係名を調べることにより、望ましい係の設置状況を掴むことができるだろう。

仮説2 児童対象に、係活動をしているときの「楽しさ」を調べることにより、楽しい係について指導の手がかりを得ることができるであろう。

仮説3 開発・工夫した係活動指導プログラムを活かした指導を通して、児童の感じる係活動への楽しさや、係活動で育まれる資質・能力等の変容を児童の意識調査から掴むことができるであろう。

## 3. 研究仮説を実証するまでの取組み

- (1) 研究計画立案、研究内容の共通理解、係活動指導プログラムの開発・工夫等の検討
- (2) 事前アンケート実施
- (3) 重点指導
- (4) 事後アンケート実施
- (5) 研究のまとめ

## 4. 係活動の指導プログラム開発・工夫の全般

本研究は共同研究であるので、指導プログラムの開発・工夫等については下記内容の共通理解を行った。

### (1) 活動時間

- 主に教育課程外の始業前、休憩時、放課後等に行うが、活動報告会等は教育課程内の学級活動で行う。

### (2) 係の組織

- 係は学級内の実態に合わせ、児童の希望を活かして設置する。一つの係人数については、低学年の場合は1人1役的、学年が上がると数名の児童が担当し、望ましい集団活動として展開できるようにする。

### (3) 表ー1 係活動の指導プログラム開発・工夫等の内容

① 特別活動全体計画	② 学級活動 年間指導計画
③ 学級活動 学期の指導計画	④ 係活動 月の予定表・週の予定表
⑤ 係活動 振り返りカード	⑥ 学級活動指導案（係活動）
⑦ 係活動 指導ポイント表	⑧ 道徳との関連指導（道徳の時間での指導）

(4) 表-2 係活動における条件整備・指導の留意事項等について

	係活動の条件整備・指導の留意事項等
主に教師の指導性に関わる内容	○ 係活動の時間を確保する。(始業前、朝の会、業間、昼休み、放課後、他)
	○ 係活動の必要性・内容が理解できるように説明する。
	○ 発達段階に合った係活動にする。(係の組織、名称、人数、活動内容、他)
	○ 係活動の月・週の予定表を用意する。
	○ 係活動に必要な用具をそろえる。(はさみ、のり、テープ、用紙、他)
	○ 係活動コーナーを設置し、係の作品やお知らせを掲示できるようにする。
	○ 自分も楽しめて、学級生活の向上にもつながる係であることを説明する。
	○ 自主的で楽しい活動が生まれるような係名を考える事ができるようにする。
	○ 「道徳の時間」との関連を図り、働く事の意義をつかませる。
主に児童の自主性に関わる内容	○ 教師も可能な限り、係の活動や話し合いに入る。
	○ 月・週の予定を立て、反省し、改善できるようにする。
	○ 自分達で活動を工夫し、楽しく活動できるようにする。
	○ 一人一人が進んで活動し、役割責任を果たせるようにする。
	○ 話し合いによって、係活動の問題点等を解決できるようにする。
	○ 振り返りカードにより、常に係活動の見直しができるようにする。

(5) 各種の指導材

① 表-3 係活動 週の予定表

係の仕事 1 週間の予定表 (6-2)

係 名	係 名	係 名	係 名	係 名	係 名
めあて	楽しく仕事をしよう				
日	曜	時 間	だれが	なにをする	設 置
9	月	休み時間	徳谷	紙をセロる	A B C
10	火	〃	えの本	字を書き	A B C
11	水	〃	えの本	じしゃく付け	A B C
12	木	〃	徳谷	はり付け	A B C
13	金	〃	えの本	かざり付け	A B C

「時間」の記入のしかた → 始業前、朝の会、業間時間、昼休み、放課後  
「設置」 → A (がんばった) B (ふつう) C (もうすこしだった)

② 表-4 係の仕事 月の予定表

かかりのおしごと よていひよう 9がつ (1-1)

かかりのなまえ (きりぎりす)

にち	いう	じかん	だれが	なにをするか
2	げつ			
3	か			
4	すい			
5	もく	ひるが	たかみ	3人で紙をきれいにする
6	きん	きんが	とてし	しめ縄をきれいに飾る
9	げつ	きんが	とてし	けいさくをきれいに飾る
10	か	ひるが	とてし	けいさくをきれいに飾る
11	すい	ひるが	たかみ	けいさくをきれいに飾る
12	もく	かざり	たかみ	つくえをきれいに飾る
13	きん	けいさく	とてし	けいさくをきれいに飾る
17	か	けいさく	たかみ	けいさくをきれいに飾る
18	すい	ひるが	たかみ	けいさくをきれいに飾る
19	もく	ひるが	たかみ	けいさくをきれいに飾る
20	きん	けいさく	とてし	けいさくをきれいに飾る
24	か	けいさく	とてし	けいさくをきれいに飾る
25	すい	ひるが	たかみ	けいさくをきれいに飾る
26	もく	けいさく	とてし	けいさくをきれいに飾る
27	きん	ひるが	たかみ	けいさくをきれいに飾る
30	げつ	ひるが	たかみ	けいさくをきれいに飾る

みんなで きょうりよくして、たのしい かかりかつどうに しよう☆

③ 表-5 係の振り返りカード

係の仕事 振り返りカード (3-2) 9 月 11 日

係 名	クイズ	名 前	ふく
1. 係の仕事をして、楽しかったこと、みんなのために役立ったことはどんなことですか。			
(楽しかったこと) はじめてのこと			
(みんなのために役立ったこと) みんなを助けて、いってテストをたずくしたいです。			
2. 係の仕事でくふうしたいことは、どんなことですか。			
もっとよくして、うまくもったしたいです。			
3. 自分 係の仕事をつらかったこと			
( ) うまくできた。			
( ) うまくいかなかったが、がんばった。			
( ) うまくできなかった。			

## (6) 学習指導案（係活動）

学級活動指導案（係活動）					指導者
1	日 時	平成 年 月 日（水）	第5時限目（13：45～14：30）		
2	学年・組	第3学年			
3	題材	「みんながもっと楽しくなる係の活動を考えよう」			
（本時の活動）					
議題	みんながもっと楽しくなる係の活動を考えよう				提案者
司 会	〇〇・〇〇	黒板記録	〇〇・〇〇	ノート記録	〇〇
活動内容	支援・援助				評価
1 つかむ (1) はじめのことば (2) 役割の紹介 (3) 議題の確認 (4) 提案理由の発表	<input type="checkbox"/> みんなに届く声で発表するようにする。 <input type="checkbox"/> 司会ノートに沿って、話合いが進められるようにする。 <input type="checkbox"/> みんなにわかりやすいように提案するよう助言する。				・ 本時のねらいをつかむことができて いるか。
2 話し合う (1) これまでの係の活動をふり返る。  (2) 学級がもっと楽しくなる係の活動話し合う。	<input type="checkbox"/> 今まで活動していて、よかったことや困ったことをわかりやすく発表するように支援する。 <input type="checkbox"/> 活動をふり返って、みんなが楽しめ、仲よくなれるような活動を考えるようにする。				・ 自分の考えをもって話合いに参加しているか。 ・ 学級がもっと楽しくなる係の活動を考えることができたか。
3 まとめる (1) 話し合ったことの確認  (2) 自己評価 (3) 先生の話 (4) おわりのことば	<input type="checkbox"/> 決まったことをはっきりさせ、みんなで実践しようという意欲を高めるようにする。 <input type="checkbox"/> 今後の活動に意欲的に取り組めるよう助言する。				・ めあてに沿ってふり返ることができたか。

## (7) 道徳との関連指導

### ① 道徳資料

道徳の時間、係活動の意義や大切さについて考えを深めることを通して、自らの個性・特性を伸ばし、豊かな学級生活を創造する心や態度を育む。そのため、下記の資料を道徳の時間に取り上げ、意図的に創意工夫のある指導を行った。

表－6 [道徳の資料] ○ 各学年、9月初旬に1時間指導する。

学年・組	副読本	資料名	発行	内容項目
1年1組	どうとく みんななかよく	ゆかいなせんたくもの	東京書籍	4－(2) 勤労
2年1組	こころの ノート	がんばってるね！しっかりやろう	文部科学省	4－(2) 勤労
3年2組	明るい心で どうとく	公園ボランティア	東京書籍	4－(2) 勤労
4年1組	にんげん	はたらくてステキ いつもありがとう	明治図書	2－(4) 感謝 4－(2) 勤労
6年2組	6年生の道徳	ぼくの仕事は便所そうじ	文溪堂	4－(2) 勤労
6年2組	6年生の道徳	わたしたちの小さな駅	文溪堂	4－(2) 勤労

## 5. アンケート調査結果・考察

### (1) 児童対象 「係の設置状況」調査

- 調査実施日 2014(平成25)年7月初旬
- 調査対象者 大阪市立5小学校 333名
  - 低学年（1年2学級、2年2学級） 105名
  - 中学年（3年2学級、4年2学級） 111名
  - 高学年（5年1学級、6年3学級） 117名

表－7 係の設置状況（小学校）

低 学 年					中 学 年					高 学 年										
	係の種類	1年		2年	計		係の種類	3年		4年	計		係の種類	5年				6年	計	
		①	2					①	2					1	①	②	3			
1	ほん	○	○	○	○	4	1	図書	○	○	○	○	4	1	遊び プレイ	○	○	○	○	3
2	ほけん	○	○	○	○	4	2	遊び	○	○	○	○	4	2	掲示 Happy Deco	○	○	○	○	3
3	くばり	○	○	○		3	3	体育	○	○		○	3	3	スポーツ 運動	○		○	○	3
4	たいいく	○		○	○	3	4	音楽	○	○	○		3	4	保健	○		○		2
5	こくばん	○		○		2	5	掲示			○	○	2	5	図書 BOOK	○	○			2
6	てんけん	○		○		2	6	新聞			○	○	2	6	新聞、 News Land		○	○		2
7	けいじ		○	○		2	7	飾り	○	○			2	7	インテリア・飾り		○	○		2
8	きゅうしょく			○	○	2	8	まんが			○		1	8	体育	○			○	2
9	せいり きれい			○		1	9	整理			○		1	9	クイズ、 Q&A		○	○		2
10	がくしゅう			○		1	10	お笑い				○	1	10	調査			○		1
11	あそび				○	1	11	生き物		○			1	11	書記			○		1
12	クイズ				○	1	12	配り	○				1	12	まんが			○		1
13	かぎ		○			1	13	学級会			○		1	13	修理			○		1
14	でんき・まど		○			1	14	給食			○		1	14	G1＝G6 1年生とふれあう		○			1
15	マジック				○	1	15	お手伝い			○		1							
16	わらい				○	1	16	学習				○	1							

(結果・考察)

- 係の組織は、担任の姿勢や指導等によって特色が出ている。係の数は、学年・学級によって異なるが、一般的には学年が上がるにつれて係の統廃合が行われる。
- 低学年では、係活動の初期の段階であるので、単純でお手伝い的な係、個人に重点を置いた係や、学級の日常活動に必要な当番的な係が設けられている。高学年になるほど、自主性、連帯性、協力性や自他の生活上に役立つ係が設けられている。
- 児童の興味・関心を活かした「遊び」「クイズ」「まんが」「お笑い」等の係名があり、楽しさの要因であると考えられる。
- 高学年になると、外国語活動の学びを活かした係名が付けられている。係活動と他の教育活動との関連は、双方の学びを深めることができることや、楽しさを感じることでもできて好ましいネーミングになっている。
- 係名に「音楽・体育係」等の教科名が付けられている。教科名の係は、指導者の補助的な仕事であることや、指導性が前面に出て児童の創意工夫が活かしにくいこと、児童の自主的活動へ広がりにくいこと等もあり、本来の係活動であるとは言い難い。したがって低学年以外の学年では教科名の係は設置しないことが望ましい。
- 中学年に「配り・給食・学習係」等の当番的な仕事と思われる係が設置されている。低学年の係はお手伝い的な仕事から始まるが、その後、児童自らを活かせることができること、創意工夫のできる楽しい係、また、学級のみんなに役立つ係へと発展できるようにしたい。

(2) 児童対象 「事前・事後における係の仕事で楽しさを感じる時」調査

表－８ 係の仕事で楽しさを感じる時（小学校）

- 調査実施日 事前調査 2014（平成25）年 7月中旬  
事後調査 2014（平成25）年 10月初旬
- 調査対象者 大阪市立5小学校 178名  
低学年（1年1学級、1年1学級） 55名  
中学年（3年1学級、4年1学級） 58名  
高学年（6年2学級） 65名

[事前]				[事後]			
順	楽しさを感じる時	人数(名)	出現率(%)	順	楽しさを感じる時	人数(名)	出現率(%)
1	仕事がうまくできたとき	41	22.8	1	係の準備をしているとき	45	25.00
2	係の仕事をしているとき	34	18.89	2	係の仕事をしているとき	43	23.89
3	友達のために役に立っているとき	15	8.33	3	みんなと協力して仕事をしているとき	37	20.56
4	みんなの前で発表できる時	11	6.11	4	係に必要なものを作っているとき	32	17.78
5	係の仕事で、みんなが楽しく喜んでい るとき	10	5.56	5	仕事がうまくできたとき	24	13.33
6	係の準備をしているとき	8	4.44	6	掲示物を作ったり、黒板に書くとき	18	10.00
7	友達と話合って計画を立てているとき	8	4.44	7	友達と話合って計画を立てているとき	16	8.89
8	友達の手伝いをするとき、されたとき	7	3.89	8	友達のために役に立っているとき	16	8.89
9	掲示物を作ったり、黒板に書くとき	6	3.33	9	ほめられたとき	13	7.22
10	プリントを配ったり集めたりしている とき	6	3.33	10	係の仕事で、みんなが楽しく喜んでい るとき	11	6.11
11	みんなと協力して仕事をしているとき	5	2.78	11	みんなの前で発表できるとき	9	5.00
12	係に必要なものを作っているとき	5	2.78	12	プリントを配ったり集めたりしている とき	8	4.44
13	ほめられたとき	4	2.22	13	職員室に行くとき	2	1.11
14	お礼を言われたとき	4	2.22	14	分からない	1	0.56
15	係りの仕事を分かってもらえたとき	3	1.67	15			
16	職員室に行くとき	3	1.67	16			
17	一人ではできないことができるとき	2	1.11	17			
18	あまりない	11	6.11	18			
合計		185	103.93	合計		277	155.62

（結果・考察）

係の仕事で楽しさを感じる時を事前と事後とで比較すると、次の通りであった。

- 全体的傾向は、合計欄から判断すると、楽しさを感じる人数は、事前よりも事後のほうが約1.5倍にも増えている。また、事前では楽しさを感じる時は「あまりない」と答えた人数は11名であったが、事後では「分からない」と答えた人数は1名だけであり、激減した。したがって、係活動の重点的な指導により、児童たちの係活動における楽しさはかなり増していることが窺えた。このことは、学級生活が楽しくなる要因になっていると判断できる。

- 事後における楽しさの上位には、「係の準備をしているとき」「係の仕事をしているとき」「みんなと協力して仕事をしているとき」「係で必要なものを作っているとき」等、係の活動過程を楽しんでいることが挙げられた。

これらの項目から分かる事は、係活動の重点指導により、活動しやすい雰囲気や好ましい人間関係、連帯感の醸成、また、役割を通して能力や個性が生かされていることや係への満足感等が高まっていることである。

これらは係活動を通して培われる楽しさの要因である考えられる。

### (3) 児童対象 「係の仕事についての質問」意識調査

#### ① 目的

開発・工夫等を行った係活動指導プログラムを用いた指導を通して、児童の感じる係活動への楽しさや、係活動で育まれる資質・能力等の変容を児童対象の意識調査から明らかにする。

#### ② 調査対象者

- 重点指導学級 大阪市立5小学校6学級 1～6年生180名(男89名、女91名)
- 通常指導学級 大阪市立3小学校6学級 1～6年生158名(男74名、女84名)

#### ③ 調査時期

- 事前調査 平成25年7月11日～同年7月18日、
- 事後調査 平成25年10月1日～同年10月3日

#### ④ 調査手続き

小学生対象に質問紙法による事前調査と事後調査を学級担任が実施した。この間、重点指導学級では、開発・工夫した係活動指導プログラムを用いた指導を学級担任が行った。

#### ⑤ 質問紙

質問項目は、熱海則夫編著「新指導要録の記入例と用語例」2003年 図書文化社の観点を参考に作成した。

表－9 係活動アンケート項目の内容

質問 番号	質 問 項 目	資質・ 能力等
1	係の仕事のやりかたは、わかっていますか。	技能
2	係の目標(めあて)をつくり、それをめざすことができますか。	自治性
3	まわりの子と話し合って仕事をしていますか。	言語力
4	同じ係の子と協力して仕事をしていますか。	協力性
5	自分の意見や気持ちを、同じ係の子に話すことができますか。	自尊心
6	係の仕事は、みんなのために役立っていますか。	自己有用感
7	係の仕事は、進んで行うことができますか。	自主性
8	係の仕事を行い、仕事の大切さがわかっていますか。	勤労観
9	係の仕事は責任をもっておこなっていますか。	責任感
10	係の仕事は楽しくできていますか。	楽しさ

## ⑥ 分析方法

質問項目の得点は、「とてもそう思う」5点、「まあそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「あまりそう思わない」2点、「まったく思わない」1点として算出した。

係活動の指導プログラム開発・工夫等の有効性を全体的につかみ、児童の変容を確認するため、平均値の差の検をt検定(両側検定)で行った。また、重点指導学級と通常指導学級を比較するため、2(重点指導学級、通常指導学級)×2(事前・事後)の交互作用について統計処理した。あと、必要に応じて、2(重点指導学級、通常指導学級)×3(低学年、中学年、高学年)×2(事前、事後)の3要因分散分析を行った。

ここでは本紙面に限りがあるので、児童の変容については全学年の統計と研究主題の係活動における「楽しさ」に焦点を絞った統計を取り上げて考察する。

## ⑦ 結 果

ア. 係活動における児童の変容「係活動における資質・能力等の比較」(重点指導学級 全学年)

表－10 「係活動」重点指導前後の児童の資質・能力等の変容(全項目)

重点指導学級 全学年

		1. 技能	2. 自治性	3. 言語力	4. 協力性	5. 自尊心	6. 自己有用感	7. 自主性	8. 勤労観	9. 責任感	10. 楽しさ
事前	得点	695	592	642	676	620	646	616	660	663	674
	平均値	4.5	3.9	4.2	4.4	4.1	4.2	4.0	4.3	4.3	4.4
	標準偏差	0.90	1.25	1.16	1.04	1.22	1.14	1.22	0.97	1.01	1.13
事後	得点	730	663	671	685	659	676	669	690	687	716
	平均値	4.8	4.3	4.4	4.5	4.3	4.4	4.4	4.5	4.5	4.7
	標準偏差	0.47	0.82	0.85	0.81	0.85	0.80	0.83	0.74	0.78	0.68
	t検定	.00 **	.00 **	.00 **	.00 **	.14	.00 **	.12	.00 **	.00 **	.01 **

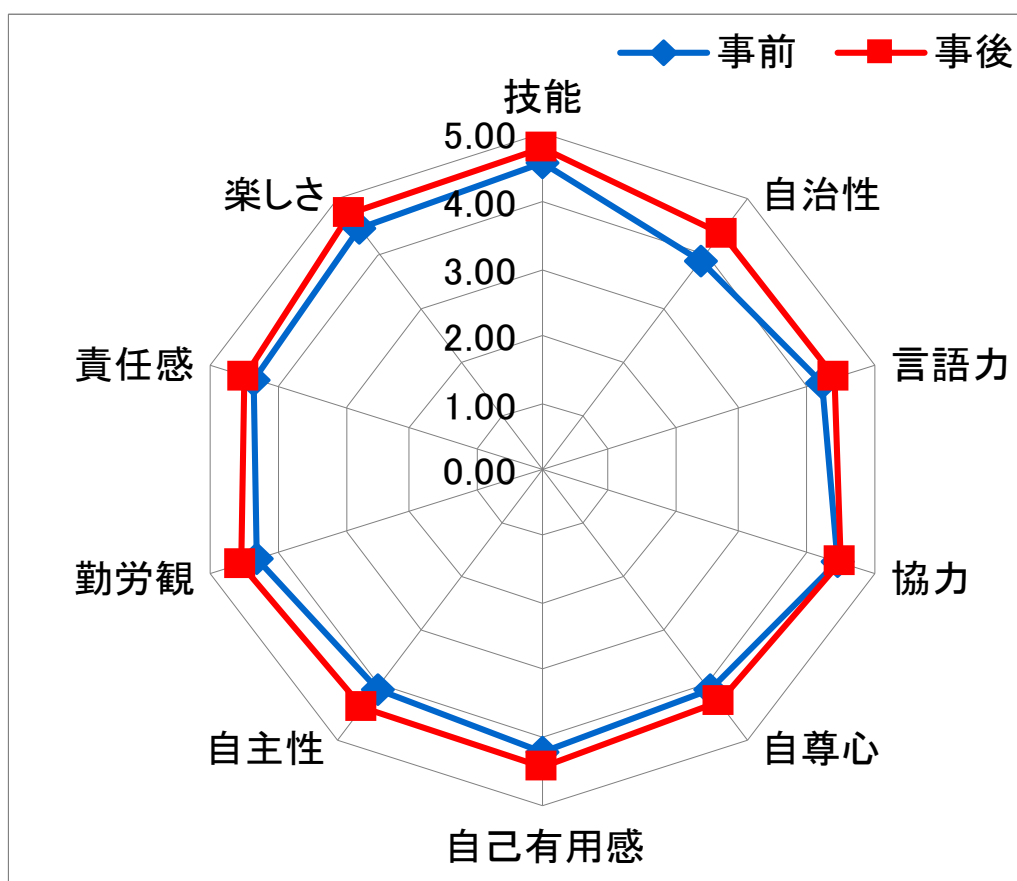
\* :  $p < .05$

\*\* :  $p < .01$

## (結果・考察)

- 重点指導前と指導後の平均点を比較すると、全ての項目(資質・能力等)の平均点は上がっている。したがって、開発・工夫等を試みた係活動指導プログラムは有効であったと考えられる。
- 重点指導前と指導後の平均値をt検定により比較すると、10項目中8項目において有意差1%で有意な上昇を確認することができた。平均値は上がったが、有意差の出なかった2項目「5. 自尊心」「7. 自主性」については、今後の研究や実践の課題である。





図－1 「係活動」重点指導前後の児童の資質・能力等の変容（10項目）

イ．係活動における「楽しさ」に関わる児童の変容（重点指導学級 全学年）

表－11 「係活動」重点指導前後の児童の変容(楽しさ)

	事 前	事 後
得 点	673	716
平均値	4.4	4.7
標準偏差	1.13	0.68

\*\* :  $p < .01$

(結果・考察)

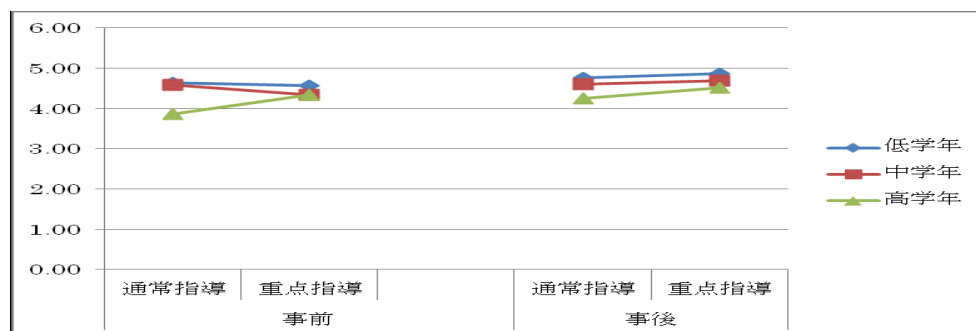
○ 本研究のテーマである係活動における「楽しさ」に関わる児童の変容については、重点指導前と指導後の平均値をt検定により比較した結果、有意差1%で有意な上昇を確認することができた。

したがって、本研究で開発・工夫等を図った係活動の指導プログラムを用いた指導は有効であり、児童の楽しさを醸成できると言える。

ウ．係活動における「楽しさ」に関わる児童の変容（重点指導学級と通常指導学級 全学年）

表－12 「楽しさ」の平均値（事前・事後 重点指導学級・通常指導学級）

学 年	事 前		事 後	
	通常指導学級	重点指導学級	通常指導学級	重点指導学級
低学年	4.6	4.6	4.8	4.9
中学年	4.6	4.3	4.6	4.7
高学年	3.9	4.3	4.2	4.5



図－2 「楽しさ」について重点指導学級と通常指導学級の比較

表－13 「楽しさ」 事前の分散分析（重点指導学級・通常指導学級）

	自由度	F 値	有意確率
通常指導 × 重点指導	1	0.26	0.61
低学年 × 中学年	2	7.30	0.98
低学年 × 高学年	2	7.30	0.00 **
中学年 × 高学年	2	7.30	0.02 *
小 1 × 小 2	5	5.05	1.00
小 1 × 小 3	5	5.05	0.30
小 1 × 小 4	5	5.05	1.00
小 1 × 小 5	5	5.05	0.02 *
小 1 × 小 6	5	5.05	0.01 **
小 2 × 小 3	5	5.05	1.00
小 2 × 小 4	5	5.05	1.00
小 2 × 小 5	5	5.05	0.89
小 2 × 小 6	5	5.05	1.00
小 3 × 小 4	5	5.05	1.00
小 3 × 小 5	5	5.05	1.00
小 3 × 小 6	5	5.05	1.00
小 4 × 小 5	5	5.05	0.08
小 4 × 小 6	5	5.05	0.06
小 5 × 小 6	5	5.05	1.00

\* :  $p < .05$

\*\* :  $p < .001$

(結果・考察)

- 低学年と高学年、中学年と高学年に差がある。
- 小1と小5、小1と小6に差がある。
- 小1の値が高いため、差が出ていると思われる。このことは、低学年児童の係活動に対する興味・関心は高く、実践においても楽しく活動できていると言えるのではないだろうか。しかし、学年が上がるにつれて、児童の学校・学級生活は学習や諸活動においても多様となるので、低学年のとき程の楽しさにはなりにくいと考えられる。

表－１４ 「楽しさ」 事後の分散分析（重点指導学級・通常指導学級）

	自由度	F 値	有意確率
通常指導×重点指導	1	4.30	0.04 *
低学年×中学年	2	9.02	0.34
低学年×高学年	2	9.02	0.00 **
中学年×高学年	2	9.02	0.02 *
小１×小２	5	5.05	1.00
小１×小３	5	5.05	0.68
小１×小４	5	5.05	1.00
小１×小５	5	5.05	0.00 **
小１×小６	5	5.05	0.28
小２×小３	5	5.05	1.00
小２×小４	5	5.05	1.00
小２×小５	5	5.05	0.00 **
小２×小６	5	5.05	0.47
小３×小４	5	5.05	1.00
小３×小５	5	5.05	0.20
小３×小６	5	5.05	1.00
小４×小５	5	5.05	0.00 **
小４×小６	5	5.05	0.66
小５×小６	5	5.05	0.26

（結果・考察）

- 通常指導学級と重点指導学級を比較すると、重点指導学級が有意に高い。つまり、開発・工夫した指導プログラムによる指導効果が出たと言える。
- 低学年と高学年、中学年と高学年に差がある。下の学年ほど、係活動への楽しさがよく表れている。
- 小１と小５、小２と小５、小４と小５に差がある。下の学年ほど、係活動への楽しさ、興味・関心、実践意欲が表れていると考えられる。

## 6. 成果と課題

- 係活動の指導プログラムの開発・工夫等や条件整備等を行うことにより、子ども達の係活動への取組みは意欲的になってきた。したがって、指導プログラムの開発・工夫等は有効であることが実証できたと考えられる。
- 係活動の重点指導前後における係活動の楽しさを比較すると、指導後に楽しさを挙げた人数が約１．５倍に増し、その効果的な内容は、主に「係の準備、係メンバーとの共同作業、製作物の取組み、役立っているとき、称賛のあるとき」等、係の活動過程に楽しみを感じていることが分かった。したがって、このような面から指導の手立てを工夫すると成果は挙げると考えることができる。
- 児童対象の係活動にかかわる意識調査から、係活動を通して培われる子ども達の資質・能力等の状況を把握することができた。重点指導により、１０項目の資質・能力等の内、「楽しさ、技能、自治性、言語力、協力性、自己有用感、勤労観、責任感」の８項目において望ましい変容を確認することができた。平均値は上がったが有意差がなかったのは「自尊心、自主性」の２項目のみであった。この「自尊心・自主性」の伸長を図る係活動の指導は、今後の研究や実践における課題である。
- 係活動の重点指導学級と通常指導学級について、「楽しさ」の項目に焦点を当てて児童の変容を比較すると、事前において有意な差はないが、事後においては重点指導学

級の方に差が出ている。つまり、係活動の重点指導によって、児童たちの係活動への楽しさは高まったと言える。また、係活動に対する楽しさは、下の学年ほど感じていることが掴めた。

- 係活動は、学校生活の中でも集団活動の基盤となる小集団での活動である。その係活動によって児童の楽しさが増したことは、児童の学校・学級生活の楽しさにつながる要因であると考えられる。

#### [引用文献]

- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 平成20年 東洋館出版社  
熱海則夫編著 『新指導要録の記入例と用語例』 2003年 図書文化社  
渡部邦雄、織井道雄共編 『小学校 指導要録の記入文例』 1992年 文教書院  
坂本昇一著 『なぜ学校が楽しい場になっていないか』 特別活動研究No. 385 1999年  
明治図書  
中園大三郎著 『小学校の係活動に関する研究』 学位論文 1983年 兵庫教育大学  
大学院

#### [本学修了生以外の共同研究者]

(大阪市立小学校)

武原市郎、宅見ヒロ子、金井佳孝、今村沙紀、工藤 愛、北岡芳規、藤井宣樹、  
中川仁史、石元周作、中谷昌嗣、土居佳子、牧野恵美、木口雅美、藤長絵里、  
川上孝英

(関西学院大学)

藤原靖浩